

皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は名古屋市の公園にあるラジオ塔を紹介いたします。

ラジオ塔と聞いてピンとこないかもしれませんが、私も公園を散歩していて偶然見かけました。正式には『公衆用ラジオ聴取施設』と言われていて、昭和初期に大阪・天王寺公園に第1号が設置されました。この塔のボックス状の部分に、ラジオの受信機やスピーカーを置いて音を出す仕組みになっていたようです。

当時はラジオ受信機が非常に高価で、一般家庭にはほとんど普及しておらず、ラジオ放送を人々が自由に聞けるよう、人が多く集まる全国の公園や広場にラジオ塔が設置されたようです。

かつては名古屋市内にも10ヶ所ほどラジオ塔があったようですが、現在は松葉公園(中川区)、中村公園(中村区)、志賀公園(北区)の3ヶ所に保存されており、認定地域建造物資産に認定されています。(私が見たのは中村公園のラジオ塔です…)

今ではラジオ塔が活躍していた時代と違い、インターネットなど色々なツールで様々な情報を簡単に入手できる、大変便利な世の中になっていると改めて感じました。

名古屋営業所(所長:高橋 鉄夫)

連日連夜、新型コロナウイルス関連の報道番組やWEB配信が続いています。人命を奪い、また世界経済までも脅かし、破壊するくらいの勢いで広がり続けるコロナウイルスの一刻も早い終息を願う気持ちは、皆様と同じです。

ここ最近の休日のわたしは、近くの八百屋さんとコンビニとスーパーの3ヶ所にしか行っていません。半径500m未満の行動範囲です。必ずマスクにキャップにサングラスにヘッドフォンをして完全防備で出掛けています。手袋も持ち歩いています。人口が多い東京で生活する中で人との接触は避けられませんが、出来る限り距離を取るなどして3密対策に取り組んでいます。

そんな中、自分を見つめ直すには十分すぎるくらいの時間を有効に使い、とにかく気持ちを切り替え前向きに行動するようにしています。例えば、読み貯めていた本を読むとか、ストレッチして身体をほぐし、焙煎仕立ての珈琲を飲みながら好きな音楽を聴くなどしています。家の中に居続けることは少々ストレスですがクリアしたいと思います。

東日本物流センター 東日本営業本部(センター長:木下 敦裕)



## 世界の拠点から

-From the base in the world-



まだまだ肌寒さを感じる北海道です。

今回は昨年行った函館では知らない人はいないと言われる『ハセガワストア』のやきとり弁当を紹介致します。ハセガワストアは北海道の中でも函館発祥のいわゆるコンビニ。函館市内のみ14店舗展開されています。北海道のコンビニは、セイコーマートもそうですがかなりの確率で調理スペースがあるようなイメージです。そのような環境もあってか元々おつまみ用に焼き始めていた焼き鳥をごはん・ノリ・そして焼き鳥を乗せたお弁当が出来たと店内に書いてありました。実は一番の驚きはやきとり弁当と言いながら串に刺さっているのは豚肉である事実です。

本州の人に言わせたら焼き串豚弁当としか思えないのですが、函館はじめ道南地区ではやきとりと言えば豚肉。元々道南地区は養豚場が多くあったようでその影響を受けているようです。珍しさもあり、購入して店内イトインで食べてみたところ予想以上に美味しかったです。ニンニクをわずかに利かせている所が食が進む秘密かなと感じました。今回行った店は函館五稜郭近くの店でしたので観光客を意識して目立つ店舗となっています。他の店舗は普通のコンビニですが赤色を基調にデザインされていますので探しやすいと思います。函館にお越しの時はお勧めです。



札幌営業所(所長:利川 光浩)

コロナウイルスの影響で、休日に外出できない今日この頃。本当であればこの時期は花見に出かけて春を満喫するはずですが…今年はその行きません。

それどころか大阪府と兵庫県は感染爆発の可能性も指摘され、大阪府と兵庫県の不要不急の移動はしない様にとの制限も入りました。仕事は必要な移動とはいえ、兵庫県から大阪へ通勤する身としては情報が入る度、注意せねばとの思いが強くなりました。さて、コロナとは関係なく桜はこの時期にキレイな花を咲かせています。通勤途中の桜を見ると昨年見に行った桜を思い出します。そこで休日は自宅でヴァーチャル花見。昨年取った写真を見なおすと地元兵庫では西宮市夙川の桜がベストでした。

川の両サイドに桜並木が続き、散歩コースにも良い。今年はその写真を見ながら一杯飲んでいました。来年こそはコロナも収まり花見に行け、オリンピックも無事開催できると良いですね。

大阪営業所(所長:藤谷 弘行)

昨冬のことで、近所のいちご農園にいちご狩りに行ってきました。思い起こせば、いちご狩りに行ったのは子供たちが小さい頃以来で、約10年振り。ましてや大人になってからというもの、いちごなどの果物を好き好んで食べるという習慣がなくなってきていたので、いい機会だと思い行ってきました。

場所は家から15分ほどの場所。60分食べ放題です。ハウス内の通路はいちご狩りがしやすいように広くとられています。おまけに食べ放題のいちごは『あまおう』です!!係りの人に美味しいいちごの見分け方を教えてもらいながら、案内してもらいました。(因みに美味しいいちごは先が尖っていて、葉っぱが上向きになっているのが良いらしいです。)備え付けのはさみを使って一つずついちごを切って食べていきますが、さすがは『あまおう』、甘い中にも酸味があって非常に美味しいです。はさみで切っては食べて、切っては食べて…30分くらいで20個ちかく食べてしまい、食べ放題の時間を余らせてしまう始末(汗)欲張ってはいけないと反省しました。

また、お持ち帰り(200円/100g)もできます。次回はジャム作りにも挑戦してみようと思います。

福岡営業所・沖縄配送センター(所長:江頭 慎司)

週末、いつもなら家族と一緒に外食したり、買い物をしたりしていますがコロナのせいで政府から外出自粛要請が出てからほとんど家で過しています。野菜、果物、肉などはどうしても必要なとき以外はスーパーに買い物に行かず、オンラインで注文します。野菜、果物などを買う際は、いつも鮮度や熟し具合を見ながら選びますが、オンラインでは写真を見て判断するので全くわかりません。更に配達時間帯が広く、昼から夜の間と言われて、夜9時頃来たこともあります。

こんな生活スタイルで当分の間、過ごさなければなりません。3ヶ月間、半年、いやあもしかしたらそれ以上かもしれないと言った評論家もいます。更にコロナのせいで生活スタイル(石鹸で何回も手洗い、人と話すときにマスクをつけたりするなど)は変わってしまっています。コロナが落ち着いた後も、今の生活スタイルは直ぐには無くならず、正常な生活に戻るまで時間がかかるそうです。

多くのインドネシア人はイスラム教であり、今週末からラマダンの断食が始まります。断食は、イスラム信者にとって毎年やっている行事ですが、今回パンデミックの状態で行うことに、少し不安なところもあります。

現在、毎週、体調管理の仕方を評価し、次の月曜日でも元気に出勤できるようにずっと体調管理をし続けて、何とかコロナにかからないように気を付けてやっています。

KJ(インドネシア)(工場長: S.Akhyar)

～水是水、お湯も水～

喫茶店やレストラン、日本では席に着けば水の入った冷たい水とおしぼりが出されます。冬でも通常水の入った水が出てきますね。これは中国の人にとっては実はちょっとした驚きなんです。「冬なのに冷たい水が出てくるの?」もともと中国の食文化には生ものや冷たいものを食べる習慣はあまりありませんでした。元来、体を冷やすことをあまりよしとしない、という考えがあるようです。

もちろん洋食や日本食もポピュラーになり、食習慣は変化してきていますが、レストランで水と言えば、常温の水、或いはお湯が出てくるのが普通です。ちなみに中国語ではお湯は『熱水』または『開水』と言われます。水是水、お湯も『水』なわけですね。『湯』と言えばスープを意味します。豊かなお茶文化をもつ中国では小さな水筒ボトルにお茶葉を入れて持ち歩く人を多く見かけます。電車の駅には給湯器が備え付けられており、自由にお湯を補充することができます。

今ではコーヒーチェーンも多数出展し、コンビニでも様々なペットボトル飲料が売られていますが、中国の生活文化では、やはりお茶は外せません。お茶好きの私にとっても中国茶は、とても興味深いものです。『開水』で注ぐおいしい中国茶、また別の機会にご紹介したいと思います。

KHE(中国・蘇州)(総経理: 山本 博史)

新型コロナウイルスが全世界にて最悪のパンデミックになっております。皆様も十分ご注意ください。ここアメリカでは当初、初期の水際対策がしっかりしていたためか、それ程大きく広がっていませんでしたが、想定外の欧州からの2次感染にて一気に感染が加速したようです。

トランプ大統領は、最近では余裕が全く感じられず、政府対策に関連して毎日の様にテレビ会見を実施しています。中には科学的根拠のない独自のトークもありました。大統領選挙での危機感もあるのか、先日、過去最大規模の景気刺激対策法に署名しました。

現在アメリカのほぼ1/3の都市でロックダウン、あるいは外出禁止が発令されています。ここカリフォルニアではスーパーやレストラン(テイクアウト及び配達)それ以外はエッセンシャル・ビジネス(医療、流通など)は

通常通り営業しています。

2020東京五輪・パラリンピックの延期が発表されましたが、アメリカではほぼ全てのプロスポーツが中止・延期になっています。先月までは無観客試合などで対応していましたが、NBAの選手の感染が確認されてからは一切中止となりました。今は命が最優先だと多くの人々が理解していますが、やはりこの夏に向け、照準を合わせてきたアスリート達、今年活躍を期待されていたプロフェッショナル・プレーヤーには受け入れがたい状況があるのも事実だと思います。

このコロナウイルスによりついに歴史まで変わってしまう事態になってしまいましたね。今となっては来年度に復活の意味でのオリンピック開催が出来る事を願っております。

KCS(アメリカ)(COO: 板垣 仁志)

～ロックダウンか外出自粛か～

『ロックダウン』は、最近の新型コロナウイルスにおいて非常に強力な恐ろしいものです。政府がこれを決定すると、どこも自由に行けなくなります。

建設業で働く外国人労働者(主にインド人、バングラデシュ人)が感染したケースがいくつか発見されました。彼らは狭い寮に住んでいるため、感染が拡大する恐れがありました。初期より政府は、全てのケースの追跡・リンクに尽力していましたが、4月初旬は全くリンクできておらず、これは感染した場所を追跡できていないことを意味します。この2つの理由から、4/4~5/7まで政府は『サーキットブレーカー(セミロックダウン)』を決定しました。重要なビジネスはそのままですが、その他のビジネスは閉じなければいけません。自宅待機すべきで、食料や運動のためだけにしか出かけるべきです。

外国人労働者は隔離され、いくつかの寮に移動しました。サーキットブレーカーの数日後、感染者数が急上昇し始めました。このクラスターからのみで毎日1000人に達します。その後、政府はサーキットブレーカーを6/1まで延長することを決定しました。主に外国人労働者クラスターでのみ見つかっているという事実があるため、延長は多くの方が不満でした。しかし、誰もが貢献しなければならず、安全を確保しなければなりません。

ご自身とご家族の健康にお気をつけ下さい。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

～レゴマスター～

オランダのテレビでは、レゴマスターという番組があります。これは二人組(合計8組)が面白くて複雑なレゴを作り上げるという内容です。

参加者はオランダとベルギーから来ています。参加者は互いに競い、毎週数多くの課題を通して印象的なレゴを製作します。彼らは、何百万ものブロックから選択・構築し、オランダ人レゴデザイナーに証明する必要があります。各組は、特定時間内に何かを作るように指示されます。割り当て時間は、3~15時間。図面は許可されていないため、自分の記憶とスキルを使ってファンタジーを表現する必要があります。

8つのエピソードがあり、勝ち抜き戦が行われます。優勝チームが決まるまで各エピソード1チームずつ脱落していきます。優勝チームは、レゴマスターの称号と賞金25,000ユーロを手に入れます。彼らが印象的な作品を作り出す方法は、本当に信じられないほどで、それを見ることはとても楽しいです。

また、現在はコロナの影響もあり、レゴはとても素晴らしい娯楽です。

KIO(オランダ)(Jan van Mier)